

令和4年度

ブロック別研修会の取組 実践発表

～吾川ブロック いの町立神谷保育園～

1 園の概要

○園児数、クラス数、職員構成

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
クラス	さくらんぼ	いちご	ひよこ	うさぎ	くま	ぞう	28名
園児数	1名	5名	5名	8名	6名	3歳児	
担任	2		1	1	1		5
その他	園長1・看護師1・早出パート2・延長パート2・調理員1・調理パート1・代替パート3						

○目指す子ども像

- 明るく元気いっぱい遊べる子ども
- 優しく思いやりのある子ども（自分や友達を大切にする子ども）
- 意欲的に取り組み最後までやろうとする子ども
- よく見て、よく聞いて、よく考える子ども

○保育目標

自分らしさを発揮して園生活を楽しみ、意欲的でたくましい子どもを育てる



2 研修目標

『 安定した生活リズムの中で、一人一人が主体的にやってみたくなるような保育者の援助と環境構成 』
～子どもの育ちを捉え、さまざまな経験を通して自尊感情を高めながら～

3 研修目標設定の理由

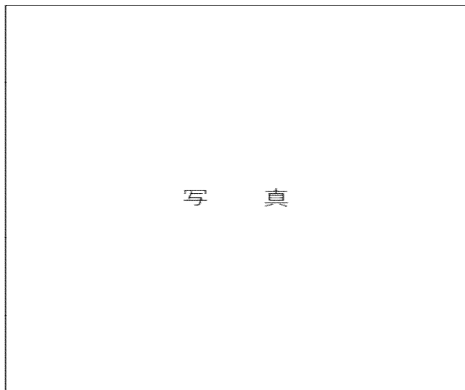
本園の子ども達は、自然豊かな環境の中で虫捕りや飼育体験などを通じて、日々友達との関わりや生き物への興味・関心を寄せて過ごしている。また、小規模保育園ならではの異年齢の関わりの中で、優しく思いやり教えてもらったりして子ども同士が育ち合う姿が見られる。一方、初めてのことが不安であったり注目されることが苦手だったりして自分の思いをうまく表現できない自信のない子どもが多い。また、登園時間が遅かったり寝ながら登園したりして、スムーズに活動に取り組めない子どもの姿も見られる。このような姿から家庭と共に生活リズムを見直して子どもが意欲的に生活できるように取り組みたいと思った。そして、子ども一人一人が自ら環境に関わり、さまざまな経験を通して達成感や満足感を味わい自信に繋げていきたい。そのために子どもが主体的にやってみたくなるような環境づくりや保育者の援助のあり方について研修を進めていきたいと考え、目標を設定した。

4 年間取組内容

4月	研修の方向性について共有 研修目標の検討と年間計画の作成	10月	園内研修（3歳児保育と協議） 公開保育・研究協議（2～5歳児）
6月	園内研修（4・5歳児保育と協議） 園内研修（2歳児保育と協議）	12月	園内研修（0・1歳児保育と協議） 園内研修（全職員での学習会）
7月	園内研修（親育ち支援研修） 園内研修（保小中連携公開保育）	1月	一年間の振り返り（成果と課題）
		2月	13ブロック交流会
9月	園内研修（5歳児研究保育）	3月	総括・次年度に向けての計画作成

5 成果

《実践例 1 泥遊び》

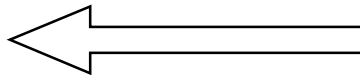


《4月当初の子どもの姿》

- ・園庭の赤土のスペースが直径50cm位しかなく、個々にはよく泥団子を作って遊んでいたがそれ以上の展開は見せなかった。

【環境の見直し】

- ・スペースを一畳位に掘って広げ、赤土を加えた。
- ・じっくり遊べるように暑さ対策として遮光ネットを設置した。
- ・友達と関わって遊べる丸型のテーブルを数個置いた。
- ・できあがったご馳走を置く台を準備した。
- ・赤土のスペースに水を加えた。
- ・硬くなった赤土を掘り起こして準備した。



《子どもの姿の変容》

- ・土をこし器でさら粉にし、ボウルに入れて水の加減をしながら混ぜ、色々な硬さを楽しむなどご馳走作りが始まった。
- ・硬さを調節した泥をクッキー型に入れて、翌日まで乾かしてクッキーを作ったり友達と協力して泥のクリームを塗ってケーキ作りをしたりしていた。
- ・赤土のスペースに水が加わると、裸足で友達と一緒に入って全身で泥遊びを楽しむことができた。

【学んだこと】

- ・泥の硬さで子どもの興味や遊びが違ってくることが分かった。
- ・保育士が赤土を掘り起こしておくに興味をもって遊びが始まっていく様子を見て、環境構成の大事さを感じた。
- ・遊びの展開によって環境の再構成が必要であることを再確認した。



《実践例2 3歳児クラス》

《4月当初の子どもの姿》

- ・3歳児は、4・5歳児がいろいろな素材を使って製作活動をしていることに興味をもち、4・5歳児クラスに行って真似をして作って遊ぶことに夢中になった。素材をセロハンテープでくっつけたりハサミで切って食べ物に見立てたりして、3歳児なりの簡単なものであったが、子ども達は保育室に帰って「〇〇ができた」と、とても満足そうに担任に見せた。2か月ほどそのような遊びが続いた。

【環境の見直し】

何故、自分の部屋で遊ばないのか？ 3歳児保育室の環境を見直した！！

- ・自分の引き出しに入れていたハサミを見えるところに置き、自由に使いやすいようにした。
- ・素材の種類や量を増やして、選んで使えるよう分類した。
- ・机の高さや向き、コーナーの場所などを子どもが活動しやすいようにした。
- ・自分の作ったものを置いておける場所（個人の箱）を用意した。

写 真

写 真

写 真



《子どもの姿の変容》

- ・子ども達はいつの間にか3歳児の保育室で製作遊びをするようになった。
- ・ハサミで切ることが面白かったようで、紙テープやストローを一度切りして食べ物に見立てて遊んでいた。
- ・自分の使いたい素材を選び、試したり自分なりにイメージしたりして作ることを楽しんでいた。
- ・作る過程で使いたい素材や用具がない時は、担任に「〇〇がほしい」と積極的に言うようになった。

【学んだこと】

- ・年上の友達の遊びに魅力を感じ、見て刺激を受けて真似るという経験から遊びが始まった。自然に異年齢の関わりをもちながら育っていく環境の良さを感じた。
- ・子ども達の姿から興味に沿った環境の見直しの大事さを学んだ。

①子どもの姿の変容

- ・砂場では、幼児と乳児が混ざり合って遊び、それぞれの遊びが十分遊び込めないことが課題であった。時間差で遊ぶようにしていたが、砂場が広く、使っていない部分があったので、砂場にタイヤを埋めて仕切りをした。そうすることで、幼児クラスは年下の子どもに遠慮なくダイナミックに遊ぶことができた。乳児クラスの子どもの遊びを見ながらじっくり落ち着いて遊ぶことができるようになった。
- ・2歳児クラスでは、毛糸やフェルト玉などいろいろな物に見立てられる素材を取り入れたことで、2歳児なりのイメージで食べ物などに見立てて、友達とやり取りをしながらごっこ遊びを楽しむようになった。
- ・不安な子どもには、保育者が最後まで見届けたり声を掛けたりしていくことで、安心感や信頼関係を育み、自分の思いを出しながら遊ぶようになってきた。
- ・保育者が友達同士をつなげたり自分で考えたりできるような言葉をより意識して掛けるようにしたことで、子ども同士の関わりが増え、保育者が介入しなくても相談し合う姿や自分なりに考え工夫する姿に繋がった。

写 真

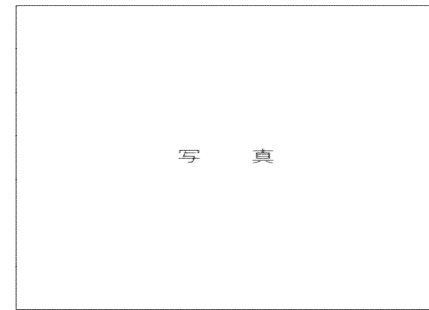
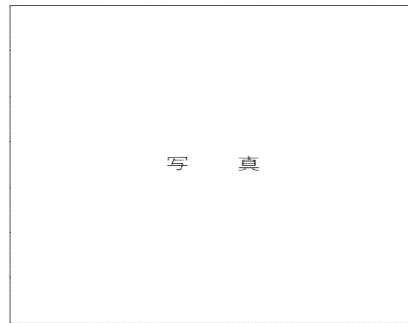
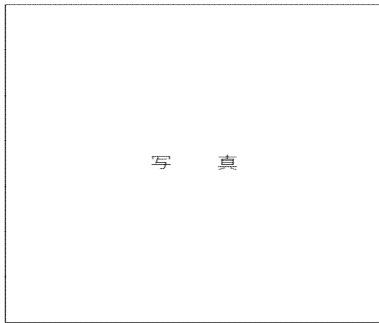
②研修体制に関わる変容

- ・子どもの姿や友達関係、家庭状況などについてクラス担任だけでなく午前午後のパート保育者も参加し、園全体で定期的に共有会を行ったり、研修に参加できるように時間等を工夫したりした。そうすることで、職員間で情報を共有しそれぞれの立場で意見を出し合い、子どもや保護者への対応も共に考え、同じ方向に関わることができるようになった。
- ・保小連携の研修では、小学校教諭（養護教諭を含め3名）の保育士体験や4・5歳児園内研修への参加、保小中園内研修、ブロック公開保育への参加など行うことができた。協議の中で子ども達の学びの姿を『10の姿』で共有し、幼児理解を深めたり情報交換などをしたりすることで、小学校にスムーズに繋がっていく連携の大事さを実感した。

写 真

③保育者の意識や保育実践の変容

- ・子どもの姿から環境を見直す大切さを学んだ。また、年間計画や発達に沿って、今子ども達に経験してほしいことをねらいや活動内容に計画し、意識して環境や援助を考えるようになった。
- ・園の課題をパート職員も含めて話し合うことで、それぞれの立場で感じることや思いを共有することができた。その上で研究テーマを設定したことにより、同じ方向性で考えるようになった。また、気付いたことや悩み、意見を出し合うなどの機会を定期的にもつことで、園全体で子ども一人一人の育ちや子育てを支えようという意識が高くなった。
- ・子どもの姿を最後まで見届けることを意識するようになり、子どもの内面を押し量り、褒めたり認めたりする言葉が増えた。また、保護者にも子どもの頑張っている姿などを伝え、信頼関係を築いていけるよう心掛けるようになった。
- ・子どもの思いを引き出し、イメージしているものを形にしていく過程で、一緒に考えたり見守ったりするなど子どもの主体性に任せながら保育者の関わるタイミングを考えるようになった。



④公開保育を行って

- ・協議を通して他園の先生方から様々な意見をいただいたことで、自分が見えていなかった子どもの姿や内面に気付くことができ幼児理解を深めることができた。また当たり前になっていたことがアドバイスを貰って、考え方が柔軟になりいろいろな方法を試してみるようになった。
- ・子どもがそれぞれの遊びをじっくり楽しめるようにコーナーを見直すなど、環境の再構築をすることができた。また、自己の保育を肯定するきっかけにもなり、自信に繋がった。
- ・保育を振り返って、ねらいと内容に対して他の保育者の意見を聞くことで、このねらいが今の子ども姿に対してどうであったかを考えることができ、振り返り改善していく大切さを感じた。



⑤その他

- ・生活リズムを整えられるように、保護者に向けて幼保支援課の生活リズムチェックを利用したりお便りを出したり、登降園時や面談等で声を掛けるなどしたことで、保護者に意識を向けてもらえるようになった。

<保小中連携事業>

《例年》

- ・月1回連絡会
- ・保小中合同運動会
- ・神谷発表会（保小中）
- ・保小中連携園内研修
- ・神谷小中学生読み聞かせ
- ・体験入学

《本年度の取組》

- ・プール交流（1・2年生と4・5歳児）
- ・小学校教諭3名保育士体験
- ・小学校教諭1名と教頭先生が5歳児の園内研修（保育と振り返り）に参加
- ・小学校1・2年生担任が保育参観をして10の姿を確認
- ・2学期に合同体育授業（1・2年生と4・5歳児）



《コロナ禍の工夫》

- ・小中学校職員に収穫した梅や野菜を販売に行く
- ・ハロウィン仮装で小中学校を訪問
- ・生活発表会の劇や合奏をDVDで小学校1、2年生に見てもらい感想をいただく

【成果】

- ・小学校教諭に遊びや生活の中で幼児が経験していることや学びの姿を見てもらうことができ、5領域をもとに「10の姿」で捉えて共有することができた。
- ・幼児期のどのような姿や経験が小学校の教科に繋がっていくか確認し合った。
- ・園児が交流を通して人や場所に慣れ期待感をもてるように取り組んだ。
- ・互いに幼児と児童の情報・意見交換をし、理解を深めた。

【課題】

- ・保小の交流がイベントで終わるのではなく活動のねらいを互いにしっかり意識することが大事だと感じた。

写 真

写 真

写 真

6 来年度に向けて

①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・異年齢の関わりをさらに深め、自分の思いを伝えたり相手の思いを受け止めたりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じながら考えたり工夫したりして遊び込むことができる子どもを育みたい。
- ・（乳児クラス）安心できる雰囲気を作り、教材研究や環境構成に取り組み、好きな遊びをじっくり楽しんだり簡単な身の回りのことを自分でやってみようとしたりする力を伸ばしていきたい。
- ・（3歳児）主体的に遊ぶ姿が見られるようになったが、さらに子ども自身が自分で考えて行動し、自信をもっているいろいろなことに挑戦してみようとする積極性を伸ばしていきたい。
- ・（4・5歳児）以前までは恥ずかしいという気持ちが強かった子どもや自分に自信のなかった子どもが、様々な活動や体験を通して、自尊感情も高まり意欲に繋がってきていると感じるので、継続して子ども同士の関わりを大事にしながら互いに認め合い育ち合う仲間関係を築いていきたい。
- ・（4・5歳児）自分のイメージするものをどんどん自分で考えたり工夫したりする姿が見られるようになってきた。そこで、子どものやってみたいと思う気持ちを大事にしながら共通の目的の実現に向けての活動も取り入れ、自分の思いを伝えたり相手の考えを聞いたりして協同し、遊ぶ楽しさも味わう経験をもてるようにしていきたい。

②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・乳児・幼児、各年齢の発達に応じた保育ができるように環境構成や援助などについて話し合いを行ったり、意図的に連携が取れるように週案を掲示して共有するなど見通しをもって交流したりできるよう工夫していきたい。
- ・全職員で学びを深めていけるように事例検討や園内研修などを行う機会をもちたい。また、園全体で子どもの姿や家庭の状況などを情報共有し子どもの育ちを支えていけるよう話し合う時間をもてるようにしていきたい。
- ・子どもの発達や活動に見通しがもてるように年間計画や月案、週案を定期的に見直し、ねらいに基づいた環境構成や援助を考えPDCAサイクルに沿って保育を改善していけるよう努めたい。また、余裕をもって計画して取り組み、子どもと一緒に楽しむ保育を心掛けたい。
- ・小学校との連携を引き続き行い、様々な活動の中で幼児理解を深めてもらうと共にスタートカリキュラムにつなげていってほしいと思っている。保小が互いに情報を共有しながら園としても就学に向けての取り組みに努めていきたい。
- ・引き続き、保護者と連携を取りながら子どもの生活リズムの大切さを伝えていきたい。

写真

ご清聴ありがとうございました。

